

2025 年度

麗澤・地域連携ゼミナール 成果報告書



麗澤大学
地域連携センター

目次

()内は連携先

1. ペットの飼育マナー向上について

(柏市・動物愛護ふれあいセンター)……………p1

2. 孤独・孤立について考える ～気づいたら一人だった…そうなる前に人と人との

つながりについて考えてみませんか～(柏市・福祉政策課)……………p4

3. 近隣センターでの中高生向け生涯学習講座の開催について

(柏市・生涯学習課)……………p8

4. 柏駅直結のコミュニティスペース BeARIKA を“柏の街の居場所”として育てる

方法を考えよう(東神開発 BeARIKA)……………p10

5. 廃校再生×地域共創 — ひろせフル・ネクスト

(麗澤校友会・麗大麗澤会)……………p13

参考ウェブサイト等……………p15

2025 年度「麗澤・地域連携ゼミナール」成果報告書

担当テーマ名	ペットの飼育マナー向上について			
連携先 企業名・部局名	柏市動物愛護ふれあいセンター			
グループメンバー (フルネーム) 1はグループリーダー	1	大内 翼	5	謝 海浜
	2	福田 倫	6	唐 キン華
	3	東 夏希	7	鄧 琳
	4	堀口 真央	8	塚原 美月
担当教員名	土田 尚弘			
活動スケジュール 概要	<p>10/7 キックオフミーティング ※授業期間中の毎週火曜日に定例ミーティング（計 14 回） ・課題の整理⇒現状の把握</p> <p>10/17 柏市動物愛護ふれあいセンターとのキックオフミーティング ・他の自治体の調査、提案の内容のとりまとめ</p> <p>12/12 柏市動物愛護ふれあいセンターへの提案 ・ポスターと動画の作成</p> <p>1/16 柏市動物愛護ふれあいセンターでの動画の撮影とポスター案の説明 ・ポスターと動画の修正</p> <p>2/7 柏市動物愛護ふれあいセンターで動画案の説明と発表（天候不順で中止） 2/9 全体発表</p>			
テーマ概要	<p>柏市では、コロナ禍を契機として犬の飼育数が増加しており、それに伴って飼育マナーに関する苦情や地域住民からの指摘も増加している。実際に、平成 29 年には 21,785 頭であった犬の飼育数が、令和 6 年には 26,712 頭へと大きく増加しており、飼育者の増加に比例して、排泄物の放置やリード未装着などのマナー問題が顕在化している。これらの問題は、地域住民とのトラブルの深刻化につながる可能性もあり、犬の適切な管理と周囲への一層の配慮が、これまで以上に求められている状況である。</p>			
調査内容	<p>本調査では、まず柏市における犬の飼育数の推移を把握し、近年において顕著な増加傾向にあることを確認した。加えて、犬の飼育マナーに関する課題への対応として、他自治体を実施している広報活動や啓発施策を調査・整理し、どのようなメッセージや表現が用いられているのかを分析した。これらの情報をもとに、柏市において重点的に訴求すべき飼育マナーの内容と、効果的な情報発信の方法について検討を行った。</p>			
先方への 提案内容	<p>本提案では、犬の飼育マナー向上を目的として、特に重要度の高い以下の 2 点を重点的な訴求メッセージとして設定する。</p> <p>第一に、「排泄物の適切な処理」である。原則として排泄は自宅で済ませること、やむを得ず屋外で排泄した場合には、必ず持ち帰り、適切に処理することを明確に伝える。</p> <p>第二に、「安全なリードの装着」である。散歩時には必ずリードを装着し、周囲の人や他の犬に配慮した適切な長さで使用することを徹底する必要性を訴求する。</p>			

	<p>これらのメッセージを効果的に伝えるため、視覚的アプローチと情報発信を組み合わせた理解促進施策を提案する。具体的には、①ポスターによる啓発を通じて日常的に目に触れる形でマナー意識を喚起するとともに、②動画による啓発を活用し、具体的な行動イメージをわかりやすく伝えることで、飼い主の行動変容を促すことを目指す。</p>
<p>連携先からの フィードバック</p>	<p>若い世代のアイデアで様々な提案をしていただいた。また全体会で発表いただいたことで、当センターが啓発したい内容を出席されたみなさまに知っていただく機会にもなり、大変有意義だったと思います。</p>
<p>所感・まとめ</p>	<p>「本プロジェクトを通して、留学生の立場から日本の地域社会におけるペット飼育マナーへの理解を深めることができた。全体発表では、多言語字幕を追加した理由について質問を受け、根拠となるデータを用いて十分に説明できなかった点に、自身の調査不足を感じた。多言語化の必要性を説得力のある提案とするためには、柏市に居住する外国人住民の実数や構成など、客観的なデータに基づいた説明が不可欠であることを改めて認識した。本ゼミを通じて、柏市がペットの適正飼育や共生に継続的に取り組んでいることを、柏市動物愛護ふれあいセンターとの連携を通じて具体的に実感するとともに、学生の立場でも調査結果をもとに表現や媒体を工夫することで地域に実践的な貢献が可能であることを学んだ。」</p> <p>「ペットの飼育マナーについて、自分もペットを飼っているが正しい糞尿の処理の方法など知らなかったことを沢山知れた。自分のように他にも沢山知らない人がいると思うからその人たちに知らせられるような案をもっと出せるように頑張りたいと思った。」</p> <p>「違う学部の方々と柏市の方々と協力してプロジェクトを行う機会が初めてだったため自分にとって非常に有意義な時間となりました。また新しい発見も多々あり、動画のデザインや今まで発想しなかった考えなどの沢山の新しいことを学べ、プロジェクトに参加する前より成長しているなと感じました。今回のプロジェクトに参加できて、沢山のことを知る機会にもなり大変光栄でした。」</p> <p>「今回の活動を通して、市の職員の方々と話し合いを通じて、地域課題に対し大学生がどのように関わることができるのかを実践的に学ぶことができた。動画作成では、表現や構成を工夫するとともに、日本語に加えて英語・中国語の字幕を入れ、より多くの人に情報が届くようにした。市の方々と協働して取り組んだ経験は、今後の学びに活かしたい。」</p> <p>「今回の活動を通して、市の職員の方々と話し合いを通じて、地域課題に対し大学生がどのように関わることができるのかを実践的に学ぶことができた。動画作成では、表現や構成を工夫するとともに、日本語に加えて英語・中国語の字幕を入れ、より多くの人に情報が届くようにした。市の方々と協働して取り組んだ経験は、今後の学びに活かしたい。」</p> <p>「普段関わらない学部や専攻の人と関わることができて貴重な体験になった。ふれあいセンターの方ともゼミのメンバーとも対面よりオンラインなどで関わる機会の方が多く、少し進めにくいと感じることもあったが大きく遅れたりすることなく進めることができた。また修正点を詳しく教えてもらうことができたため自分たちのやるべきことがすぐに理解することができた。ただ、同じことをずっと話している回があって先進められるところがあったのでそこは改善するべきだと思った。」</p> <p>「この授業で 色んな新しい友達ができてよかったと思いました。みんなで一緒に動画やっても経験でした。楽しかったです。」</p>

その他
 成果物・画像等
 ＊添付可

【ポスター案の例】



【動画案のキャプチャ例】



2025 年度「麗澤・地域連携ゼミナール」成果報告書

担当テーマ名	孤独・孤立について考える ～気づいたら一人だった・・・そうなる前に人と人の繋がりについて考えてみませんか～			
連携先 企業名・部局名	柏市役所 福祉政策課			
グループメンバー (フルネーム) 1はグループリーダー	1	大友愛梨	4	Shin Thant Hlaing
	2	長田創羽	5	齋藤さくら
	3	小林由佳		
担当教員名	桑原 進			
活動スケジュール 概要	<p>毎週木曜日の昼休みにミーティング</p> <p>10/9 初回ミーティング</p> <p>11/11 柏市・社会福祉協議会へヒアリング</p> <p>11/14 麗澤大学学生相談室へヒアリング</p> <p>11/27 we are アンダンテへヒアリング</p> <p>12/2 ふらっぼ流山へヒアリング</p> <p>12/16 ミーティング</p> <p>12/23 ふらっぼ北柏へヒアリング</p> <p>1/6 ミーティング</p> <p>1/30 内閣府へヒアリング</p> <p>2/6 柏市に成果報告</p> <p>2/9 全体成果報告会</p>			
テーマ概要	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間に多少の差はあるものの、今や日本に住む約40%の方が孤独を感じている（内閣府 HP より引用）。 ・世代別では20代は50代に続き二番目に高い割合となっている（43.3%）。（同） ・この結果を受けて同世代としてどう考えるか、どうしたら同世代の割合が下がるかについて考えたい。これらを元に、全世代をターゲットとして割合を下げる方策について柏市と検討する。 ・若い方々の柔軟な発想やアイデアを考える。 			
調査内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全国調査の結果と市内調査の結果は一致しているだろうか。 2. 孤独を感じている若者に対しどのようにアプローチするのが効果的だろうか。 3. 柏市にある(委託している)相談窓口を聞いたことがありますか？ 			
先方への 提案内容	<p>①「一人でいられる居場所」を広げる</p> <p>ヒアリングを通して孤独は必ずしも悪いことではなく、「ひとりでいても良いんだ」という考えを広めることも大切だと感じた。そのことから「1人でいられる居場所」をつくることも必要ではないかと考えた。そのため、他の人とのつながりがなかったり、助けを得られないという孤立から解決すればよいと考える。居場所の例として、学生相談室のこころの休憩室などの、静かで安心できる場所を提案する。</p> <p>②認知度の低さの改善</p>			

	<p>私たちがヒアリングを行った、アンダンテとふらっぽは、どちらも存在をあまり知られていないことが問題だと考える。活動内容がわからず、初めての人が参加しづらいと感じたため、活動中や雰囲気分かる写真を多くの人に知ってもらうことが良いと考えた。</p> <p>そして、利用者の声や活動の様子を発信することが利用者の安心に繋がると思う。例えば、ふらっぽ流山は、流山市の LINE を使用して宣伝していた。若者の目に付きやすいよう、他の居場所もそのように LINE や SNS などをもっと活用していくのが良いと考えた。</p>
<p>連携先からの フィードバック</p>	<p>報告会でもお伝えさせていただきましたが、「一人でいられる居場所」が求められていることや建物のデザイン性、どのような広報が若い世代に効果があるのかといったことなど...たくさん御意見・御提案をいただき、ありがとうございました。みなさんの調査結果を参考に、今後市の取組について検討させていただきます。また、NPO 法人との関わり方やグローバル化への対応につきましても、前向きに検討させていただきます。</p>
<p>所感・まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●この実習を通して、孤独・孤立になってしまうのは、個人が自由になった時代だからこそ発生してしまう問題だと感じた。しかしその中でも、問題を解決するために居場所を用意したり、政策を考えたりする人がいることを知れた。 ●一人でいることは必ずしも悪いことではないという新しい視点をしれて孤独に対する考え方を改めるよい機会になった。 ●柏市や日本の現状を見て、思ったより孤独を感じている同世代が多くて驚いた。調べていくうちに、孤独対策としての居場所や、学校以外で気軽に相談できる場所、政府の対策などの存在を知り、社会はもう少しずつ変わり始めているのだと安心した。難しいことではあるが、少しでも孤独・孤立について悩む人が減ってくれば良いと思う。 ●実際に居場所として機能している場所にヒアリングに行けたり、取り組みを直接聞くことができたり、その上若者の生の声も届けることができ、とても貴重な経験ができて良かった。しかし、具体的に良い提案があまりできていない気がしている。もっとより良い対策のしかたのがあると思う。思いつくことができず少し心残りがある。もっと深く調べたり、活動を続けてみたい気持ちもある。また、若者だけでなく他の世代についても詳しく調べてみたいと思った。 <p>ゼミの活動としては、報連相があまりできていなかったように感じる。話し合いで決まったことを欠席していたメンバーに伝え忘れてしまったことが何度かあった。それによって、うまくスケジュールを合わせられなかったこともあったため、反省点として挙げたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●とても良かった。みんなが安心して参加でき、サポートされていると感じた。勉強だけでなく、実際の経験から学ぶこともできた。孤独の問題を調べましたが、それだけでなく、人々がつながり、問題を一緒に解決する方法を考えることが大切だった。プロジェクトのメンバーは、柏市の人たちの話をしっかり聞いてくれ、とても大事に思ってくれていることが分かった。 <p>チームとして協力し、お互いに助け合いながらたくさん話し合った。アイデアを出し合ったり、一緒に考えたりするのはとても楽しかった。お菓子を食べながら話す時間もあり、それがさらに楽しい時間になった。このプロセスを通して、柏市のプロジェクトのことや、チームのみんなのこともよく学ぶことができた。また、チームワークの大切さも学んだ。アイデアを出し合い、お互いに助け合い、ときには一緒に笑うことで、プロジェクトの活動はより意味のあるものになった。</p>

成果報告書

https://drive.google.com/file/d/1N1bkjY4vNIDSOHEP0bWhBbWcQzHryObj/view?usp=drive_link

ヒアリング

- ふうらっぽ流山(モザイクは本グループメンバーではないふうらっぽ流山さんのスタッフ)



その他
成果物・画像等

- 内閣府



発表会

未だも飲み物もある！
みんなでワイワイも1人でのんびりも！

課題
知名度が低い



2025 年度「麗澤・地域連携ゼミナール」成果報告書

担当テーマ名	近隣センターでの中高生向け生涯学習講座の開催について			
連携先 企業名・部局名	柏市教育委員会生涯学習課			
グループメンバー (フルネーム) 1はグループリーダー	1	Nguyen Tran Sao Mai	4	Duong Thi Bich Ngoc
	2	山本将士	5	アナンダダサナヤカゲ ラクシニナヴォダニツシャンカ
	3	Do Thi Ngoc		
担当教員名	井上里鶴			
活動スケジュール 概要	<p>・毎週金曜日の昼休み（全員ミーティング） ・水曜日の昼休み（各グループのミーティング）</p> <p>【全員ミーティングのスケジュール】 10/10(金)メンバー顔合わせ、プロジェクトの趣旨理解 10/17(金)柏市生涯学習課の方と打ち合わせ（趣旨説明） 10/24(金) 中高生向け生涯学習講座のアイデア出し① 11/7(金) 中高生向け生涯学習講座のアイデア出し② 11/14(金) 中高生向け生涯学習講座のアイデア出し③ 11/21(金) 中高生向け生涯学習講座のアイデア絞り込み① 11/28(金) 中高生向け生涯学習講座のアイデア絞り込み② 12/3（水）柏市生涯学習課の方と打ち合わせ（講座企画案の提示） 12/12(金) 中高生との交流会の準備（講座企画案の整理・決定） 12/19(金)中高生との交流会の準備（当日の進行の確認） 12/21（日）中高生との交流会@TeToTe 1/16(金)中高生との交流会の振り返り、全体成果発表会準備 1/22（木）& 2/4（水）全体成果発表会の練習①② 2/9（月）「麗澤・地域連携ゼミナール」全体成果発表会</p>			
テーマ概要	柏市教育委員会の依頼を受け、中高生向け生涯学習講座の企画について検討した。主に次の2点に取り組んだ。(1)中高生にとって、将来の進路や生き方の選択肢が広がる講座内容のアイデアを複数考える。(2)交流会を開催し、自分たちが考えた企画について中高生と意見交換をする。			
調査内容	交流会の当日に会場にいた中高生 34 名を対象に、講座への関心、行ってみたい講座、近隣センターの認知度、利用経験、参加しやすい曜日・時間帯についてアンケートを実施した。回答は QR コードと紙の両方で回収した。			
先方への 提案内容	アンケート結果から、中高生が最も関心を持っていたのは「留学ってどんな感じ？」というテーマだった。そこで私たちは、この講座を光ヶ丘近隣センターで開催することを提案する。開催日は、中高生の希望が多かった土曜日または日曜日の午後を想定している。内容としては、留学カウンセラーを講師に招き、さらに麗澤大学の留学生による実体験の共有を行う。また、英語を含む多言語で交流できる場を設け、進路や留学に関する悩み相談にも応じられるようにすることで、中高生が将来を考えるきっかけづくりを目指す。			

<p>連携先からの フィードバック</p>	<p>連携先の柏市生涯学習課の方からは、中高生が興味関心を持つ講座の傾向や、実施可能な日時について具体的に知ることができてよかったという声があった。特に、中高生との交流会において、コミュニケーションをとりながら実際に中高生の声を聞いたことは、大学生・留学生の強みを生かした方法であった。交流会の調査で得た内容については、来年度の実現に向けてさらに連携しながら進めていければとのことであった。</p>
<p>所感・まとめ</p>	<p>今回の調査と企画づくりを通して、中高生が将来について考える機会を求めていることを実感した。特に、留学や英語などへの関心が高い中高生が多く、外の世界に目を向ける講座の必要性がわかった。また、講座への関心や参加しやすい時間帯など、実際の声を聞くことで、より現実的でニーズに合った企画を考える重要性を学んだ。今後は、今回の提案をもとに、地域の中高生が気軽に参加できる学びの場づくりにさらに貢献していきたい。</p>
<p>その他 成果物・画像等 *添付も可</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  </div> <div style="width: 50%;">  </div> <div style="width: 50%;">  <p style="text-align: center;">中高生との交流会</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p style="text-align: center;">中高生に最も人気があった講座</p> </div> </div>

2025 年度「麗澤・地域連携ゼミナール」成果報告書




担当テーマ名	柏駅直結のコミュニティスペース BeARIKA を“柏の街の居場所”として育てる方法を考えよう			
連携先 企業名・部局名	主たる連携先：東神開発株式会社 BeARIKA 派生的連携先： ・調香体験ワークショップ Carino Labo ・RPG 風の回遊型クイズ&謎解きゲーム 手賀沼流域フォーラム、東武鉄道柏駅、NPO 法人ジセダイ歴史文化継承研究所、柏市都市部、そのべ農園			
グループメンバー (フルネーム) 1 はグループリーダー	1	市原 光輝	7	稲垣 瑠生
	2	岩見 あい	8	成澤 海斗
	3	松田 悠太郎	9	岩田 隼士
	4	玉井 友貴	10	齋藤 佑隼
	5	山田 龍太	11	會澤 航哉
	6	速水 俊介	12	
担当教員名	花田太平准教授（外国語学部）			
活動スケジュール 概要	毎週木曜日 5 限：授業 ・チームビルディング（聞き取り調査の方法論、対話実践によるチームビルディング） ・BeARIKA 担当スタッフへの聞き取り調査 ・3 つのイベントの企画 ・企画実施（1/7 調香体験・1/25 冬の読書会・2/8BeARIKA Quest） ・2/9 全体発表会			
テーマ概要	柏高島屋ステーションモール 10&11 階にある複合型コミュニティスペースの BeARIKA を、新しい可能性と発見が生まれつづける柏の街の居場所とするために、学生が主体となって BeARIKA の認知、集客につながるイベントの企画・実施をおこなった。			
調査内容	・BeARIKA には 5 つのレンタルスペース（ポップアップ、ホール、スタジオ、キッチン、ブース、ギャラリー）とオープンスペース・シェアラウンジが設けられており、多様なイベント形式に加え、個人利用にも対応する空間として活用されている。 ・近隣の公民館やコミュニティスペースとの差別化を計りつつ、街の中で共存していくことが課題である。 ・BeARIKA で行われるイベントは、単に経済的利益だけでなく、BeARIKA の認知の浸透や、イベントを契機とした人の流れを生み出すことで、ステーションモール全体の利用促進を図ることを目的としている。			

<p style="text-align: center;">先方への 提案内容</p>	<p>以下の性質や付加価値の異なるイベントを三つ企画、実施した。</p> <p>①調香体験ワークショップ 本イベントは、1月17日（土）に19名の参加者を迎え実施された。満足度100%を達成し、共催者店舗への来店意欲を高める成果が得られた。フレグランス作りという体験型コンテンツを通じて、参加者が香りに対する理解や関心を深める機会となり、大学・企業・地域をつなぐ交流の場が形成された。また、本イベントを通じて、体験型コンテンツが地域交流に与える影響が具体的に確認され、今後の地域連携活動における有効な手法の一つとなることが期待される。</p> <p>②「推し、燃ゆ」冬の読書会 本イベントは、1月25日に8名の参加者を迎え、対話を通じて参加者間の相互理解が図られ、コミュニティとしての結束力を高めることができた。 初回開催でのノウハウの確立により、今後は定期開催によるコミュニティのスケールアップや、外部ゲストを招いた特別セッションの実施など、読書会を軸とした多角的なコンテンツ展開が見込める。</p> <p>③RPG風の回遊型クイズ&謎解きゲーム 本イベントは、2月8日（日）に15名の参加者を迎え、大学・連携先・地域住民の関係性が構築され、次回はより多様な企画や規模を拡大した取り組みが実施できる可能性が示された。また、連携先や BeARIKA 施設への理解が深まったことで、次回以降は継続的・発展的な連携企画の実施が期待される。 さらに、柏の魅力を発信する新たな切り口を見出すことができ、地域への関心や参加意欲の向上につながると考えられる。 これらを通じて、地域活性化へのさらなる波及効果が見込まれる。</p>
<p style="text-align: center;">連携先からの フィードバック</p>	<p>①調香体験ワークショップ 地域企業との連携により企画の精度を高めながら、参加者一人ひとりに寄り添ったコミュニケーションをとることで、学生ならではの温かみとコンテンツのクオリティが両立し、満足度の高い結果となった。参加者同士の交流やワークショップとしての豊かさを深めていくことで、さらなる体験価値の深まりにも期待したい。</p> <p>②「推し、燃ゆ」冬の読書会 当施設では実施事例のなかった読書会だが、対話と様々なバックグラウンドを持つ参加者同士の交流を中心にした構成により、他の読書会との差別化・BeARIKA ならではの体験価値の提供に繋がった。題材とする作品やテーマなどを変えながら、実施回数を重ねることで、コミュニティの醸成にも期待ができる。</p> <p>③RPG風の回遊型クイズ&謎解きゲーム 当施設だけでなく地域の魅力発信につながる企画としたことで、一般顧客と、地域プレイヤー両方への施設認知向上のきっかけとなり、地域の中での存在感を高める機会となった。地域プレイヤーとのさらなる連携強化や、実際に施設を使用したリアルイベントの実施検討など、イベント実施の意義を深掘りしながらチャレンジしてほしい。</p>

<p>所感・まとめ</p>	<p>本授業では、企画の発案から実施に至るまで、つねに地域のステークホルダーや一般の参加者のニーズを意識することが重要視された。本授業を通して、人々のニーズに応答するためには明確な役割分担（組織化とチームワーク）が不可欠であることを学び、チームメンバーの能力や適性を踏まえた「適材適所」が持つ意味を体験的に理解することができた。今後とも座学の学びだけではなく、参加と体験を通じた成長をもたらす機会を追求していきたい。</p>
<p>その他 成果物・画像等</p>	<p>本授業のインパクトとして以下のオンライン記事配信がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柏高島屋 BeARIKA の HP 記事 3 本 ・柏高島屋アカウントの Peatix 記事 2 本 ・本学の HP 記事 4 本 ・本学 X アカウントの投稿 4 本 ・本学インスタ記事 1 本 <p>--</p> <p>1/17（土）：調香体験イベント BeARIKA HP 記事 https://www.takashimaya.co.jp/kashiwa/stemo/bearika/event-report/?id=728 大学 HP 記事 https://www.reitaku-u.ac.jp/news/research/1778359/</p> <p>1/25（日）：冬の読書会イベント BeARIKA HP 記事 https://www.takashimaya.co.jp/kashiwa/stemo/bearika/event-report/?id=769 大学 HP 記事 https://www.reitaku-u.ac.jp/news/event/1778384/</p> <p>2/8（日）：BeARIKA Quest イベント BeARIKA HP 記事 https://www.takashimaya.co.jp/kashiwa/stemo/bearika/event-report/?id=775 大学 HP 記事①：事前告知 https://www.reitaku-u.ac.jp/news/research/1778365/ 大学 HP 記事②：実施報告 https://www.reitaku-u.ac.jp/news/research/1778386/</p>

2025 年度「麗澤・地域連携ゼミナール」成果報告書

担当テーマ名	廃校再生×地域共創「ひろせフル・ネクスト」			
連携先 企業名・部局名	麗澤校友会、麗大麗澤会、公益財団法人モロロジー道德教育財団・淡海湖西生涯学習センター（以下、センター）			
グループメンバー (フルネーム) 1はグループリーダー	1	大越耀	6	矢萩大揮
	2	小林麻生	7	三枝駿斗
	3	櫻井沙也加	8	田中悠斗
	4	森百叶	9	伊澤颯馬
	5	増子達哉	10	神戸宗一郎(聴講生)
担当教員名	黒須里美			
活動スケジュール 概要	<p>10/13 ひろせフル 4th ミーティング参加 10/16 顔合わせ・事前学習開始 10/20 ひろせフル 4th ミーティング参加 10/24,25,26 ひろせフル 4th 参加(二名) 11/2 麗陵祭地域連携シンポジウム参加・高島市長と交流 11/10 第一回ミーティング：Takashima Base 大澤さんと交流 12/3 第二回ミーティング：活動プレスト 12/10 第三回ミーティング：訪問準備、プラン 12/12～14 高島市訪問 12/13 第四回ミーティング・SDGs フォーラム参加 1/8 第五回ミーティング：班別企画 1/27 第六回ミーティング：全体企画 1/30 センターの方と打ち合わせ（オンライン） 2/2 最終ミーティング：全体提案の確認と報告準備 2/9 成果報告会参加</p> <p>* 上記は主なミーティング。このほかに複数の班別企画ミーティングを行った。</p>			
テーマ概要	<p>滋賀県高島市の旧広瀬小学校（廃校）を活用し、地域住民とともに「みんなが元気になる」持続可能な地域活性の仕組みを共創するプロジェクト。 大学と高島市の正式な連携協定をふまえ、安曇川中高生との協働も視野に、地域とつながる新しい「ひろせ」のかたちを提案する。</p>			
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> ● ひろせフル 4 t h に同行し、企画・活動のヒントを得る。 ● 滋賀県高島市を訪れ、センターに宿泊、イベントの参加（Teens Live/高島おどり体験）、地域住民へのインタビュー等を実際に行い、高島市やセンターの現状を調査する。また近隣の大溝地域や淡海酢有限会社訪問し高島市の特徴を理解する。 ● 現地散策から得た情報から課題への新たな解決策の一案を模索する。 			
先方への 提案内容	<p>オープンマイク：音楽イベントの開催による収益化と伝統芸能の継承、広報活動に目を向けた高島市の認知度上昇 イベント開催：みんなの居場所となるような施設のイメージアップを目的とした空き教室の活用やセンター内のイベント、文化祭等の開催</p>			

	<p>ビジネス開拓：センターの存続を目的とし、高大連携や麗澤大学そのものにアプローチした収益発生ルートや仕組み →センター、高島市に活気を取り戻させるための新たな取り組み</p>
<p>連携先からの フィードバック</p>	<p>センターが旧広瀬小学校跡を活用し、生涯学習の視点から地域に開かれた拠点として高島市の地域活性を目指していることを、学生の皆さんが理解したうえで提案してくれたことを大変心強く感じました。現地でのインタビュー調査やセンターの課題を踏まえ、空き教室の活用や広瀬祭、高島市の発酵文化を生かした商品開発、市外への発信、「高島おどり」「Teens Live」とのコラボによるオープンマイク企画など、いずれも斬新で実現性の高い提案でした。今後は集客や高大連携の具体化を進めながら、ひろせフル・ネクストやセンターを基盤とした高島市との協働の広がり期待しています。</p>
<p>所感・まとめ</p>	<p>今回挙げた提案のすべてが高島の活気を取り戻す取り組みにつながると考え、高島への恩返しになればよいと思っている。</p> <p>また、実際の過疎地域が抱えている問題がとても大きく難しくわれわれの想像を超えていたこと、それに地域住民の方が長年にわたり尽力してきたこと、我々若年層のできることがまだまだたくさんあることなど、改めて認識した。今後もそういった課題問題に向き合っていくべきであり、それができてこそそのグローバル人材へと成長できるのだと考える。</p>
<p>その他 成果物・画像等</p>	<p>センター訪問時(2025/12/13-15)写真・スライド資料（まとめ）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> 

<参考>

- ・[【開催報告】「麗澤・地域連携ゼミナール」全体成果発表会を実施](#)（麗澤大学HPにて）2026.02.17.
- ・[地域連携センター WEB ページ](#)

随時、本学の地域連携活動の情報を発信してまいります！